

撮影モード S
(シャッター優先)
絞り F2.0
シャッター速度 1/800秒
露出補正 +1.0
ISO感度 1000
WB オート
使用レンズ M.ZUIKO
DIGITAL 45mm F1.8
焦点距離 45mm



撮影モード A (絞り優先)
絞り F8.0
シャッター速度 1/250秒
露出補正 +0.7
ISO感度 400
WB 晴天
使用レンズ フィッシュアイ
ボディキャップレンズ
BCL-0980
焦点距離 9mm

POINT 7 進化したAF機能で シャッターチャンスを逃さない

動く被写体への追従アルゴリズムを一新。精度が大幅に向上し、動きまわる子どもや動物にも高い精度でピントを合わせられるようになった。さらに、顔優先・瞳優先 AF の機能も進化し、横顔やうつむいた状態、顔の一部が隠れていてもフォーカスを合わせ続けられるため、シャッターチャンスを逃さない。

POINT 8 カメラの楽しみが広がる 交換レンズ

優れた光学特性を持つ M.ZUIKO DIGITAL のマイクロフォーサーズシステムレンズ。多彩なラインナップから、広角ズーム、望遠ズーム、単焦点と、撮影用途やシーンに最適なレンズを選ぶ。レンズ内手ぶれ補正機構が搭載されているレンズとカメラボディ内手ぶれ補正機構の組み合わせで、手持ち撮影でのぶれを最小限にとどめることができる。



撮影モード A (絞り優先)
絞り F2.0
シャッター速度 1/13秒
露出補正 +0.7
ISO感度 800
WB オート
使用レンズ M.ZUIKO
DIGITAL 17mm F1.8
焦点距離 17mm
その他 アートフィルター
(ネオノスタルジー)



撮影モード A (絞り優先)
絞り F8.0
シャッター速度 1/4秒
露出補正 -1.0
ISO感度 200
WB 晴天
使用レンズ M.ZUIKO
DIGITAL ED 30mm
F3.5 Macro
焦点距離 30mm

Contents

Chapter 1 OM-D E-M10 Mark IVの基本操作を知ろう

Section 01	各部名称を確認しよう	16
	前面、左上面の主な名称／背面、右上面の主な名称	
Section 02	撮影前のカメラの準備をしよう	18
	電池をセットして充電する／記録メディアをセットする／ レンズを装着する／日付を合わせる	
Section 03	まずは撮影してみよう	20
	モニターの初期表示画面／視度を合わせる／ モニターを調整する／画像サイズと画質を設定する／ 撮影モードを設定しモニターを見ながら撮影	
Section 04	カメラの構え方を覚えよう	24
	横位置写真を撮る構え方／縦位置写真を撮る構え方 身体とカメラを固定する／ 可動式モニターを使って様々な姿勢で構える／ モニターを 180 度回転させて自分撮りする	
Section 05	ファインダーとモニターを使いこなそう	26
	撮影時の情報表示の切り換え／ ボタンによく使う機能を割り当てる	
Section 06	撮影した画像を再生しよう	28
	再生の操作／複数画像のインデックス再生とカレンダー再生／ 画像のクローズアップ再生	
Section 07	不要な画像を消去しよう	30
	画像の 1 コマ消去／複数コマを選択して消去／ 全ての画像を一括消去	
Section 08	フラッシュを使おう	32
	内蔵フラッシュを使う／外部フラッシュを使う	
Section 09	撮影モードを知ろう	34
	E-M10 IVの撮影モード／AUTO モードを使いこなす	

Chapter 2 OM-D E-M10 Mark IVの撮影を学ぼう

Section 01	機能設定の基本を覚えよう	38
	ライブコントロールとLV スーパーコンパネ／ メニューから設定する／十字ボタンで撮影機能を設定する	
Section 02	応用撮影モードを覚えよう	40
	応用撮影モードとは？	
Section 03	露出を理解しよう	42
	露出とは？／露出補正を設定する／測光方式を設定する ハイライト&シャドウコントロール	
Section 04	プログラム撮影(P)モードで撮影しよう	44
	プログラム撮影とは？／プログラムシフトを利用する	
Section 05	絞り優先撮影(A)モードで撮影しよう	46
	絞りとは？／絞り値を設定する／絞りとおけるの関係	
Section 06	シャッター優先撮影(S)モードで撮影しよう	48
	シャッター速度とは？／シャッター速度を設定する／ シャッター速度と動きの表現	
Section 07	マニュアル撮影(M)モードで撮影しよう	50
	マニュアル撮影とは？／絞り値とシャッター速度を設定する／ バルブ撮影とタイム撮影／ライブコンボジット撮影をする	
Section 08	ピント合わせの基本を覚えよう	54
	ピントの位置で主題が変わる／ピントの位置を選択する／ AF 方式を設定する／拡大枠 AF でピントを合わせる／ MF でピントを合わせる	
Section 09	ISO感度を設定しよう	58
	適切な ISO 感度を選ぶ／ISO 感度を設定する／ 感度による違い／上限値と基準値を設定する	
Section 10	ホワイトバランスを設定しよう	60
	ホワイトバランスの基本的な使い方／ ホワイトバランスを設定する／プリセットホワイトバランスの種類	

Section 11	アスペクト比を設定しよう	62
	アスペクト比とは／アスペクト比を選択する／アスペクト比の種類	
Section 12	ドライブモードを設定しよう	64
	ドライブモードの種類／ドライブモードを設定する／ ドライブモードを活用する	
Section 13	ピクチャーモードで好みの画に仕上げよう	66
	ピクチャーモードを知る／ピクチャーモードを設定する／ 仕上がりを詳細に調整する／モノトーンの詳細を設定する	

Chapter 3 OM-D E-M10 Mark IVの個性的な機能を使おう

Section 01	アドバンスドフォトモードで一歩進んだ撮影をしよう	70
	アドバンスドフォトモードの設定方法／ライブコンポジット／ ライブタイム／多重露出／HDR 撮影／静音撮影／パノラマ／ デジタルシフト／AE ブラケット／フォーカスブラケット	
Section 02	シーンモードで状況に合わせた撮影をしよう	80
	シーンを設定する	
Section 03	アートフィルターの基本を覚えよう	82
	ART モードでアートフィルターを設定する／ アートフィルターに効果を追加する／ ほかの撮影モードでアートフィルターを設定する／ ファインチューンを活用する	
Section 04	アートフィルターで写真を楽しもう	86
	ポップアート／ファンタジックフォーカス／デイドリーム／ ライトーン／ラフモノクローム／トイフォト／ジオラマ／ クロスプロセス／ジェントルセピア／ドラマチックトーン／ リネキュレール／ウォーターカラー／ヴィンテージ／ パートカラー／ブリーチバイパス／ネオノスタルジー／ アートフィルターに効果を追加する	
Section 05	動画を撮影しよう	96
	ムービーモードで撮影する／動画を再生する／ インターバル撮影とタイムラプス動画／ ハイスピードムービーを撮る／4K で撮影する	

Chapter 4 レンズ交換で表現の幅を広げよう

Section 01	レンズの基礎知識を身につけよう	102
	レンズの各部名称／レンズの種類／焦点距離について理解する／ 焦点距離と画角の関係をj知る／焦点距離による遠近感の変化／ 35mm 判換算とマイクロフォーサーズ	
Section 02	標準ズームレンズを使ってみよう	108
	標準ズームレンズの活用ポイント／ 標準ズームレンズを使いこなそう	
Section 03	単焦点レンズを使ってみよう	110
	単焦点レンズの活用ポイント／単焦点レンズを使いこなそう	
Section 04	広角ズームレンズを使ってみよう	112
	広角ズームレンズの活用ポイント／ 広角ズームレンズを使いこなそう	
Section 05	望遠ズームレンズを使ってみよう	114
	望遠ズームレンズの活用ポイント／ 望遠ズームレンズを使いこなそう	
Section 06	マクロレンズを使ってみよう	116
	マクロレンズの活用ポイント／マクロレンズを使いこなそう	
Section 07	いろいろなレンズを使ってみよう	118
	コンバーターレンズの活用方法／ボディキャップレンズの活用方法／ もっと単焦点レンズを使いこなそう／ M.ZUIKO PRO シリーズを使ってみよう	

Chapter 5 シーン別撮影テクニック

Section 01	家族の思い出のセルフィーを撮ろう	122
	スマートフォンを使って手で撮る／ 芝生など寝転べる場所は低い位置で撮る	
Section 02	子どもの成長記録を残そう	124
	単焦点レンズで1ランク上の写真に仕上げる／ カメラのモニターを動かして真俯瞰撮影	

Section 03	動く子どもの決定的瞬間を切り取ろう	126
	C-AF で動く子どもにピントを合わせ続ける／ シャボン玉のベストな配置バランスを高速連写で捉える	
Section 04	雰囲気のある女性ポートレートを撮影しよう	128
	ピントは目に合わせる／自然な表情を引き出す	
Section 05	構図を意識して旅先の思い出を写真にしよう	130
	三分割構図を意識する／同じ主役を位置を変えながら撮る	
Section 06	水族館で海の生き物を美しく撮ろう	132
	泳ぐ魚にピントを合わせ続けて捉える／ 光源に合わせてホワイトバランスを変更する	
Section 07	いろいろな角度から花を撮影しよう	134
	マクロレンズでグッと近づく／ 望遠レンズを使って大きな丸ぼけを作る	
Section 08	夕日の美しさを表現しよう	136
	オブジェの形をシルエットで表現する／ 夕日を浴びた被写体を印象的に撮る	
Section 09	旅先でスナップ撮影をしよう	138
	モノクロ表現で質感や主題を引き立たせる／ 夜の街を歩き交う人々をぶらして撮る	
Section 10	主役を明確にして料理をおいしそうに撮ろう	140
	真俯瞰で撮る／大胆に寄って料理を大きく写す	
Section 11	幻想的な夜景を写真に残そう	142
	多重露出で幻想的な夜景を撮る／ライブコンボジットで光跡を撮る	
Section 12	カフェのおしゃれな雰囲気を表現しよう	144
	アートフィルターで撮る／暗い店内は単焦点レンズを使う	
Section 13	動くペットの可愛い瞬間を記録しよう	146
	ポジションやアングルを変えて撮る／瞳にキャッチライトを入れる	
Section 14	小物を魅力的に撮影しよう	148
	強めの光でかっこよく仕上げる／雰囲気のある光で仕上げる／ 忠実な色合いで仕上げる／ アートフィルターでオシャレに仕上げる	

Chapter 6 即効解決 Q&A

Question 01	タッチパネルを使って撮影したい	152
Question 02	タッチパネル操作を無効にしたい	153
Question 03	初期設定に戻したい	154
Question 04	被写体を水平／垂直に撮影したい	155
Question 05	AFイルミネーターが光らないようにしたい	156
Question 06	ダイヤルの機能を入れ換えたい	157
Question 07	保存するときのファイルネームを変更したい	158
Question 08	ファインダー撮影ですばやくピントを合わせたい	159
Question 09	フラッシュの発光方法を変更したい	160
Question 10	ポートレート撮影で瞳にピントが合うようにしたい	161
Question 11	画像再生時の情報表示を変更したい	162

Chapter 7 画像処理とWi-Fiの活用

Section 01	RAWの基本を覚えよう	164
	データ形式の違いとRAW 現像／RAW 形式で撮影する／ RAW 現像の方法	
Section 02	カメラで画像を編集しよう	166
	RAW 編集でできること／JPEG 編集でできること	
Section 03	Olympus Workspaceで画像を編集しよう	168
	Olympus Workspace をインストールする／ Olympus Workspace で画像をパソコンに取り込む／ Olympus Workspace でRAW 画像を現像する／ 編集した画像を保存する	

Section 04 Wi-Fiで接続したスマートフォンで写真を撮ろう 172

Ol.Share をインストールする／
スマートフォンとカメラを無線接続する／接続を終了する／
電源オフ時に無線接続する／ライブビュー撮影をする／
ワイヤレスレリーズ撮影をする／
スマートフォンでセルフタイマー撮影をする／
スマートフォンでインターバル撮影をする／
スマートフォンで長時間露光撮影をする

Section 05 撮影した写真をスマートフォンに転送しよう 178

カメラで撮影した写真を転送する／
写真を自動的に転送する

Section 06 スマートフォンで画像を編集しよう 180

Ol.Palette の画像編集機能

APPENDIX OM-D E-M10 Mark IVの

各部名称とメニューの機能&操作 182

ご注意 ※ご購入・ご利用の前に必ずお読みください

本書はオリンパスデジタル一眼カメラ「OLYMPUS OM-D E-M10 Mark IV」の操作方法を解説したものです。

情報は2021年1月26日現在のもので、一部の記載表示額や情報は変わっている場合があります。あらかじめご了承ください。

本書に記載された内容は、情報の提供のみを目的としています。したがって、本書を用いた運用は、必ずお客様自身の責任と判断によって行ってください。これらの情報の運用について、技術評論社および著者はいかなる責任も負いません。

以上の注意点をご承諾いただいた上で、本書をご利用願います。これらの注意事項をお読みいただかずにお問い合わせいただいても、技術評論社および著者は対処しかねます。あらかじめ、ご承知おきください。

- OLYMPUSおよびOLYMPUS OM-D E-M10 Mark IV、その他、OMデジタルソリューションズ製品の名称、サービス名称等は、商標または登録商標です。その他の製品等の名称は、一般に各社の商標または登録商標です。

Section
02撮影前の
カメラの準備をしよう

KEYWORD 電池、記録メディア、レンズ装着、日時設定

撮影の前にカメラの準備をしよう。電池はフル充電し、記録メディアを入れるのを忘れずに。レンズを装着して電源を入れたら、最初に日時設定をしよう。

1 電池をセットして充電する



電池はカメラに入れて充電する。電源がオフになっていることを確認し、電池/カードカバーロック①を外して電池/カードカバー②を開く。カバー裏にあるイラストに合わせて電池を入れ、電池/カードカバーを閉める。USBケーブルの一方をマイクロUSBコネクタ③に、もう一方とUSB-ACアダプターを繋いでコンセントに接続する。充電中はCHARGEランプ④が点灯し、充電が完了すると消灯する。

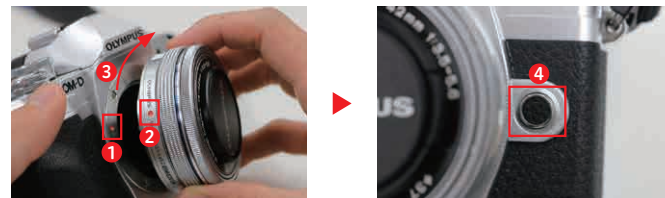
2 記録メディアをセットする



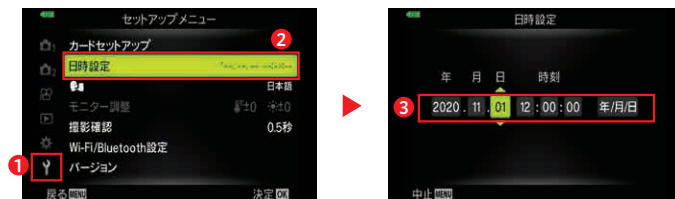
使用できる記録メディアはSD規格の市販のSD、SDHC、SDXCカード。電池をセットするときと同様に電池/カードカバーを開け、向きに注意してカードをロックされるまで差し込む。抜くときは、カードを軽く押すとロックが外れて出てくる。はじめて使うカードは初期化を行う(→P187)。

3 レンズを装着する

カメラの電源がオフになっていることを確認し、レンズのリアキャップとカメラのボディキャップを外す。カメラのレンズ合わせマーク①にレンズの取り付け指標②を合わせ、レンズを差し込む。カチッと音がするまで矢印の方向にレンズを回す③。レンズを取り外すときは、レンズ取り外しボタン④を押しながら、取り付け時と逆の方向にレンズを回す。レンズ着脱の際は、レンズのガラス面、カメラの内部に触らないように注意しよう。



4 日付を合わせる



日付は画像とともに記録されるので、撮影する前に正しく設定しよう。電源を入れたらMENUボタンを押してメニューを表示し、[セットアップメニュー]①を選択し、[日時設定]②を選択する。△▽◀▶で日時を設定する③。設定したらOKボタンで確定する。

まとめ

- 電池やカードの出し入れ、レンズの着脱は電源をオフにした状態で行う。
- 電池、カードは向きを間違えないように差し込む。
- レンズ着脱の際、カメラ内部やレンズ表面には触れないように注意する。

ピント合わせの 基本を覚えよう

KEYWORD

ピント、AFターゲット、AF方式、拡大枠AF、MFアシスト

ピントとは**写真の中で被写体がもっともくっきり見えるところ**。ピントを合わせる方法は、カメラが自動でピントを合わせる**AF**(オートフォーカス)と、撮影者が手動でピントを合わせる**MF**(マニュアルフォーカス)がある。一番強調したいところにピントを合わせよう。

1 ピントの位置で主題が変わる

ピントはその写真でもっとも重要な部分に合わせるのがセオリーだ。被写体や構図が同じ写真でも、ピントの位置が変わると主題が変わり、写真の印象も違ってくる。



手前のウイスキーグラスが主題



奥のウイスキーボトルが主題

2 ピントの位置を選択する

E-M10 IVのAF撮影では、狙った位置にピントを合わせられるように、撮影者が**AFターゲットを選べる**。11×11マスの中からAFターゲットを選択しよう。



■ AFターゲットの種類と特徴

E-M10 IVのAFターゲットのパターンは**シングルターゲット**、**9点グループターゲット**、**オールターゲット**の3種類。<[AF]>ボタンを押してAFターゲットを表示させた後、フロントダイヤルを回して種類を選ぶ。

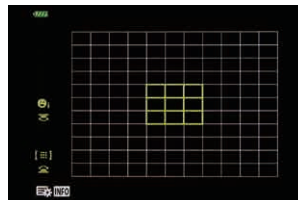
シングルターゲット



1つのAFターゲットを手動で選択。構図に合わせてAFターゲットを移動させて撮ることができる。

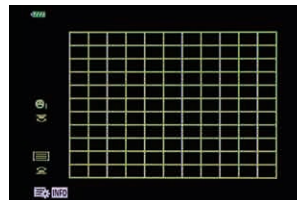
AFターゲットの初期設定はオールターゲットになっている。カメラが自動でピント位置を決めるので便利。ピント位置を自分で決めたいときは、被写体の大きさや動きに合わせてシングルターゲットや9点グループターゲットを選ぼう。

9点グループターゲット



3×3のグループを手動で選択。その中からカメラが被写体に合わせて自動的にAFターゲットを選んでもくれる。動きのある被写体を確実に捉えたい場合など、AFターゲットの場所を限定してピントを合わせたいときに効果的。

オールターゲット



全てのAFターゲットからカメラが自動的にAFターゲットを選択。手前にある被写体にピントが合う。動きのある被写体を追って撮影する場合、AFターゲット内なら自動でピントが合う。

3 AF方式を設定する

ピント合わせの方法をフォーカスモードという。[AF方式]でフォーカスモードを選ぶ。



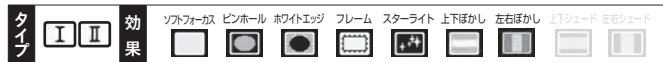
OKボタン①を押してライブコントロールを表示する。△▽で[AF方式]②にカーソルを合わせ、<◇>で種類を選択してOKボタンを押す。

アートフィルターで 写真を楽しもう

KEYWORD アートフィルター、効果の追加

16種類のアートフィルターに、タイプ、効果の追加、露出補正やホワイトバランスをかけ合わせれば、その仕上がりのバリエーションは数えきれない。各フィルターの特徴を知り自分らしい表現をしよう。

1 ポップアート



彩度とコントラストが強くなりカラフルな仕上がりになる。
タイプIは色鮮やかに、IIはコントラストがより強くシャドウ部が強調される。色の印象を強めたいときに向いている。

赤やオレンジのドリンクがより鮮やかになった(タイプI)。

2 ファンタジックフォーカス



紗がかかったようなソフトフォーカスになり、写真全体がやさしいイメージになる。
動物や人物をかわいらしく撮りたいときや、ロマンチックに撮りたいときに向いている。

子どもがシャボン玉で遊ぶ様子をふんわりとやさしい雰囲気描写できた。

3 デイドリーム



幼い頃に遊んだ記憶の中に残る光景のような、淡い描写の写真に仕上がる。ブルー系でクールな印象になるタイプIは風景や人物に、アンバー系で温かみを感じる仕上がりのIIは雑貨や動物などの被写体に合う。



ヤシの木と空を白昼夢のような淡い雰囲気に描写できた(タイプI)。

4 ライトトーン



コントラストと彩度が抑えられ、色がやわらかい印象になる。色が濃い被写体の生々しさを抑えたいときに向いており、風景をやさしいトーンにまとめるのに効果的。肌のできる影も目立たなくなるので、



人物をきれいに撮るのにも向いている。

日の当たる窓際の席ながら、まぶしさが抑えられ、やさしい雰囲気に変わった。

Section

06

マクロレンズを
使ってみよう

KEYWORD 等倍、最大撮影倍率、被写界深度、ぼけ

マクロレンズの大きな特徴は、小さな被写体を大きく撮影できること。M.ZUIKO DIGITAL ED 30mm F3.5 Macroは等倍を超える1.25倍での撮影が可能。**等倍**とは撮影倍率を1:1(1倍)で撮影することで、被写体と同じ大きさの像がセンサーに写る。このレンズは被写体よりも大きな像をセンサーに写すことができる。**最大撮影倍率が大きいレンズほど被写体を大きく写せる。**

1 マクロレンズの活用ポイント

マクロレンズで直径1.5cm程度の指輪を等倍で撮影すると、画面いっぱいには捉えられ、物のディテールがよくわかる写真になる。M.ZUIKO DIGITAL ED 30mm F3.5 Macroは高速で静かなオートフォーカス駆動を実現するMSC機構により、マクロ撮影でもすばやいピント合わせが可能だ。



撮影モード A(絞り優先) 絞り F8.0 シャッター速度 1/4秒
露出補正 -1.0 ISO感度 200 WB 晴天
使用レンズ M.ZUIKO DIGITAL ED 30mm F3.5 Macro 焦点距離 30mm

2 マクロレンズを使いこなそう

マクロ撮影は被写界深度が浅く、背景をきれいにぼかすことができる。被写界深度が浅い反面、ぼけが大きいので、全体にピントを合わせる場合には絞り込む必要がある。



撮影モード A(絞り優先) 絞り F3.5 シャッター速度 1/125秒
露出補正 +0.7 ISO感度 200 WB 晴天
使用レンズ M.ZUIKO DIGITAL ED 30mm F3.5 Macro 焦点距離 30mm

ONE POINT

小さな被写体をくっきり撮れるマクロレンズ

小さなものを大きく撮影することができるマクロレンズは、いつもとは違った視点で被写体を捉えることができる。近距離撮影時の大きくぼける特性を生かせば、被写体が浮き立った、より印象的な写真となる。等倍撮影時は被写界深度が浅くピント合わせがシビアになるため、三脚を使うとよい。



M.ZUIKO DIGITAL ED
30mm F3.5 Macro
(35mm判換算/60mm相当)

まとめ

- 小さな被写体でも、大胆に寄って大きく写せる。
- 等倍撮影や近接撮影時には、ピント合わせがシビアになるため、三脚を使うのがおすすめ。

Section

10

主役を明確にして料理を おいしそうに撮ろう

KEYWORD 自然光、逆光、真俯瞰

カフェに行くと、綺麗に盛り付けられた料理の写真を撮りたくなる人も多いだろう。ただ、撮影に時間を取られてしまえば、せっかくの料理の味が落ちてしまうし、マナーとしてもよくない。ポイントを押さえてすばやくおいしそうに撮ろう。

自然光の差し込む窓際で 逆光で撮る



逆光にすることで、自然な陰影で立体感が生まれ、食材の照りに光が反射してシズル感が生まれる。光が強すぎるときは影も強く出てしまうので、白い紙やハンカチをレフ板代わりにして、光を反射させると、濃い影を自然に明るくすることができる。

撮影モード A(絞り優先) **絞り** F8.0 **シャッター速度** 1/100秒
露出補正 +1.0 **ISO感度** 200 **WB** オート
使用レンズ M.ZUIKO DIGITAL 25mm F1.8
焦点距離 25mm

1 真俯瞰で撮る

カフェでは周りへの配慮もあるので席を立てて上から撮影するのは現実的ではないが、E-M10 IVは可動式モニターで座ったまま真上からの撮影ができる。照明の下だと自分とカメラの影が写ってしまうので真俯瞰撮影でも窓際のテーブル席がおすすめ。



撮影モード A(絞り優先)
絞り F8.0
シャッター速度 1/100秒
露出補正 +1.0
ISO感度 200
WB オート
使用レンズ M.ZUIKO DIGITAL
 25mm F1.8
焦点距離 25mm

2 大胆に寄って料理を大きく写す

料理の一部が画面から外れてもよいので大胆に近づいて撮ると、個々の料理が強調されおいしさと迫力が伝わりやすくなる。近寄った写真は手ぶれしやすくなるので注意しよう。テーブルに肘をついて固定すれば、遅いシャッター速度でも手ぶれせずに撮影が可能だ。



撮影モード A(絞り優先)
絞り F2.8
シャッター速度 1/6秒
露出補正 ±0.0
ISO感度 200
WB オート
使用レンズ M.ZUIKO DIGITAL
 25mm F1.8
焦点距離 25mm

まとめ

- 料理撮影は逆光で撮ると立体感とシズル感が出る。カフェに行ったら窓際のテーブル席を選ぶ。
- 真俯瞰で撮るときは、可動式モニターを利用すれば座ったまま撮れる。
- 大胆に近づいて撮ることで、おいしさと迫力が伝わる。手ぶれに注意。

フラッシュの発光方法を変更したい

KEYWORD

フラッシュ発光モード、赤目軽減

内蔵フラッシュを使うと暗い撮影シーンでもかんたんに明るく撮影できる。フラッシュは発光量補正(→P32)以外にも、発光方法を変えることができる。フラッシュを使うことで人の目が赤く写ってしまったり、背景が暗く写ってしまったりしたときは、フラッシュ発光モードを変更してみよう。

Answer フラッシュ発光モードを変更する



▷(⚡ボタン)①を押す。◀▶でフラッシュ発光モード②を選択し、OKボタンで決定する。ここでは[赤目Slow]を選んだ。

種類	説明
⚡ 発光	フラッシュを発光させる。
⚡👁 赤目軽減	人物の目が赤く写る現象を起こりにくくする。最初の予備発光からシャッターが切れるまで約1秒かかる。撮影状況によっては効果が出ないことがある。
🚫 発光禁止	フラッシュを発光させない。
⚡👁 SLOW 赤目Slow	スローシンクロ (先幕シンクロ) と赤目軽減発光を併用する。
⚡👁 SLOW Slow	スローシンクロ (先幕シンクロ)。シャッター速度が遅くなり、背景まで明るく撮れる。S、Mモードでは選択できない。
⚡👁 SLOW2 Slow2	スローシンクロ (後幕シンクロ)。被写体の移動の軌跡や光跡が移動方向の後ろに流れるように写る。
⚡👁 FULL 1/4 マニュアル発光量変更	発光量を自分で設定する。[FULL] を基準にその何分の1かを指定する。INFOボタンを押して、◀▶で発光量を選ぶ。

※先幕シンクロ…シャッターが開くと同時に発光する。

※後幕シンクロ…シャッターが閉じる直前に発光する。

ポートレート撮影で瞳にピントが合うようにしたい

KEYWORD

顔優先 AF、瞳優先 AF

被写界深度が浅いときのポートレート撮影では、瞳にピントを合わせるのがセオリーだ。AFの設定を瞳優先にしておくと、カメラが自動で瞳にピントを合わせてくれる。さらに、ピクチャーモードのポートレート(→P81)で撮影すると、肌の質感がきれいに表現されるので、併用するとよい。

Answer 顔・瞳優先モードをOnにする



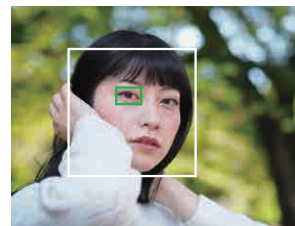
顔優先/瞳優先AFの項目

顔・瞳優先On	カメラに近いほうの瞳を検出して顔優先AFを行う
顔優先On	顔優先AFを使用する
OFF	顔優先AFを使用しない
顔優先Off	

撮影待機状態で[AF]を押す。◀▶で顔優先モードを選択し、[顔・瞳優先On] [顔優先On] [顔優先Off]を切り換える①。



顔・瞳優先Onまたは顔優先Onに設定して人物にカメラを向けると、顔を検出して白い枠が表示される。



顔・瞳優先Onでは、シャッターボタンを半押しするとカメラに近いほうの瞳に緑色の枠が表示される。そのまま全押しすると瞳にピントが合ったポートレートが撮影できる。

Wi-Fiで接続したスマートフォンで写真を撮ろう

KEYWORD OI.Share、ワイヤレスレリーズ、セルフタイマー、インターバル撮影

OLYMPUS Image Share (OI.Share)は無料の**オリンパス公式スマートフォンアプリケーション**。インストールしてカメラとWi-Fi/Bluetoothで無線接続すると、スマートフォンでカメラを遠隔操作して撮影したり、画像を自動的に転送したりすることができる。

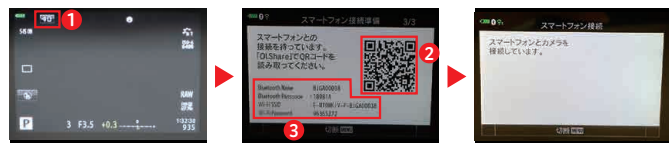
1 OI.Shareをインストールする

OI.Shareは**Android版はGoogle Playから、iOS版はApp Storeからダウンロードする**。それぞれのストアで「olympus」で検索して該当ページを表示し、指示に従ってインストールする。ダウンロードにシリアルナンバーは必要ない。AndroidとiOSで動作が多少異なる。ここではiOS版で解説する。



2 スマートフォンとカメラを無線接続する

E-M10 IVは内蔵の**Wi-Fi**と**Bluetooth**でスマートフォンと無線接続する。初回はQRコードの読み取りで接続設定を行う。以降はスマートフォンでBluetoothを起動しておけば自動的に接続される。



カメラのモニターの**MENU**①をタッチする。

接続画面で[INFO]ボタンを押すと、QRコード②、Wi-FiとBluetoothの接続情報③が表示される。

接続済みのスマートフォンがある場合はこの画面が表示される。INFOボタンを押すと接続情報の画面に切り換わる。



スマートフォンでOI.Shareを起動する。下部のカメラのマーク①をタップし、[かんたん接続設定]②をタップする。

[読み取り開始]③をタップし、スマートフォンをカメラのモニターにのせてQRコードを読み取る。

Wi-FiとBluetoothの接続情報④が表示される。[設定開始]⑤をタップすると、iOSメッセージが表示され、[接続]をタップすると接続され、設定完了画面が表示されるので[閉じる]をタップする。下部の表示が[On]になる。

3 接続を終了する

スマートフォンとカメラを接続しているとき、カメラで**MENU**ボタン①を押すと接続を終了する。また、スマートフォンでOI.Shareホーム画面下部のカメラのマーク②をタップし、[電源オフ]③の矢印を右にスワイプすると、カメラの電源を切ることができる。



4 電源オフ時に無線接続する

E-M10 IVは**電源をオフしているときにスマートフォンと無線接続することができる**。カメラの電源を切ると、指定しておいた画像が自動的にスマートフォンに転送される**シェア予約**(→P179)などの便利な使い方が可能になる。



MENUボタンを押してメニューを表示する。[Y]セットアップメニュー①-[Wi-Fi/Bluetooth設定]②でOKボタンを押す。

[Bluetooth]で▷を押す、[On]にする。前のページに戻って、[バックグラウンド通信]③で▷を押す、[On]にする。

Wi-Fiで接続したスマートフォンで写真を撮ろう

KEYWORD OI.Share、ワイヤレスレリーズ、セルフタイマー、インターバル撮影

OLYMPUS Image Share (OI.Share)は無料の**オリンパス公式スマートフォンアプリケーション**。インストールしてカメラとWi-Fi/Bluetoothで無線接続すると、スマートフォンでカメラを遠隔操作して撮影したり、画像を自動的に転送したりすることができる。

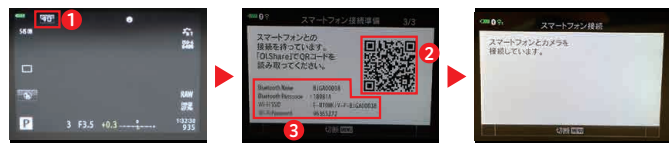
1 OI.Shareをインストールする

OI.Shareは**Android版はGoogle Playから、iOS版はApp Storeからダウンロードする**。それぞれのストアで「olympus」で検索して該当ページを表示し、指示に従ってインストールする。ダウンロードにシリアルナンバーは必要ない。AndroidとiOSで動作が多少異なる。ここではiOS版で解説する。



2 スマートフォンとカメラを無線接続する

E-M10 IVは内蔵の**Wi-Fi**と**Bluetooth**でスマートフォンと無線接続する。初回はQRコードの読み取りで接続設定を行う。以降はスマートフォンでBluetoothを起動しておけば自動的に接続される。



カメラのモニターの**画面①**をタッチする。

接続画面で[INFO]ボタンを押すと、QRコード②、Wi-FiとBluetoothの接続情報③が表示される。

接続済みのスマートフォンがある場合はこの画面が表示される。INFOボタンを押すと接続情報の画面に切り換わる。



スマートフォンでOI.Shareを起動する。下部のカメラのマーク①をタップし、[かんたん接続設定]②をタップする。

[読み取り開始]③をタップし、スマートフォンをカメラのモニターにのせてQRコードを読み取る。

Wi-FiとBluetoothの接続情報④が表示される。[設定開始]⑤をタップすると、iOSメッセージが表示され、[接続]をタップすると接続され、設定完了画面が表示されるので[閉じる]をタップする。下部の表示が[On]になる。

3 接続を終了する

スマートフォンとカメラを接続しているとき、カメラでMENUボタン①を押すと接続を終了する。また、スマートフォンでOI.Shareホーム画面下部のカメラのマーク②をタップし、[電源オフ]③の矢印を右にスワイプすると、カメラの電源を切ることができる。



4 電源オフ時に無線接続する

E-M10 IVは**電源をオフしているときにスマートフォンと無線接続することができる**。カメラの電源を切ると、指定しておいた画像が自動的にスマートフォンに転送される**シェア予約**(→P179)などの便利な使い方が可能になる。



MENUボタンを押してメニューを表示する。[Y]セットアップメニュー①-[Wi-Fi/Bluetooth設定]②でOKボタンを押す。

[Bluetooth]で▷を押し、[On]にする。前のページに戻って、[バックグラウンド通信]③で▷を押し、[On]にする。